

# 平成 29 年度第 3 回庄原市初任者研修会

平成 29 年 8 月 22 日（火） 庄原市比和自治振興センター・比和自然科学博物館

「庄原市における教育課題を踏まえ、新規採用教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭 8 名、中学校教諭 6 名、養護教諭 2 名、栄養教諭 1 名、主事 2 名】

## 【講話】「教職員としての在り方について」

庄原市教育委員会 教育部長 片山 祐子

教職員としての基本姿勢を大切にすることについて、講話を行った。

- ◆教職員として、常に学び続けることが大切である。具体的には、「人から学ぶ」「本から学ぶ」「旅から学ぶ」である。出合いを大切にし、自己研鑽することが大切である。
- ◆教職員として、常に学び続けることが大切である。指導者が学び続ける姿を児童生徒が見て成長することができる。児童生徒の生き方の先輩としての姿を示すことが大切である。



（参加者の振り返りより）

- ◇教職に対する熱い思いを、今一度意識できた。教えていただいた事項について、一步一步取り組んでいきたい。
- ◇庄原市の教職員としての自覚をもち、子供たちや保護者の方々や地域の人々と関わっていかねばいけないと思った。

## 【講話・演習】「授業づくりについて～学習指導案の作成～」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 赤木 一成

授業を企画し構想する上で大切な教材研究について、講話・演習を行った。前半は、小学校第 4 学年算数科「面積」の授業の導入についてグループごとに考え、模擬授業を行った。後半は、2 学期に行う授業の教材研究について、各教科の担当指導主事が指導・助言を行った。

- ◆授業を企画し構想する際に、常に児童生徒の顔を思い浮かべ、教材研究を行うとよい。
- ◆学習指導案作成時には、児童生徒の学習意欲を高める課題を工夫したり、話し合いを通して考えを深め広げられるよう発問を工夫したりすること。また、学んだことを実感できる振り返り活動を充実させること。



（参加者の振り返りより）

- ◇授業を構想する際、児童生徒が必然性を感じるような学習課題を提示していきたい。
- ◇学習者主体の学びにするために、本時の学習課題を子供たちの言葉で作ればよいことが分かった。今後、自分の実践に取り入れていきたい。

## 【講話】「メンタルヘルス研修 ストレスとうまく付き合う

～心の健康を保つために～

臨床心理士 藤沢 真智

教職員を続けていくために、自分のストレス状況に気付き、日常的、意識的にストレスをマネジメントすることについて、講話を行った。

- ◆ストレスと心身の仕組みを理解し、自分のストレス反応の表れ方を知っておくこと。そして、対処法を学び、日常生活でストレスマネジメントを行うこと。
- ◆職場内のソーシャルサポートの力を高めること。仕事への具体的なサポートや情緒的なサポートにより、しんどさを共感できる組織づくりが大切であること。



(参加者の振り返りより)

- ◇ストレスを感じた時は放っておかず、自分の好きなことをしたりリラクゼーションをしたりして軽減させていくことが必要だと分かった。
- ◇自分がどのようなことにストレスを感じ、どのように心身に表れるかが分かった。避けられないストレスは前向きに付き合いたい。

## 【講話・演習】「公務員としての在り方（法令演習）」

庄原市教育委員会 教育指導課長 中重 秋登

公務員として職務遂行の根拠となる法令について、講話・演習を行った。

- ◆公務員としての職責を自覚するとともに、法令法規を踏まえたサービス意識をもち、使命感をもって職務を遂行すること。
- ◆学校教育法第11条に規定する児童生徒の懲戒・体罰等に関する参考事例を踏まえ、体罰に対する正しい認識に基づき、指導に当たること。



(参加者の振り返りより)

- ◇公務員は全体の奉仕者であるため、常に「見られている」ことを意識し、節度をもって職務や日常生活を行いたい。
- ◇体罰に当たる行為と体罰に当たらない行為について、演習を通して改めて確認することができた。

## 【施設見学】「比和自然科学博物館」

比和自然科学博物館長 進藤 眞基

庄原市の豊かな自然に係る展示物やその価値について、館長の案内により見学を行った。

- ◆モグラをはじめ、多くの生物の標本が展示及び管理されていること。
- ◆直接触れて観察できる生物や鉱石の標本があり、授業に活用できること。



(参加者の振り返りより)

- ◇想像以上の規模と生物の種類に驚いた。一つの一つの展示コーナーで学ぶことがたくさんあり、理科や社会科の学習で見学に来て学習したいと思った。
- ◇庄原にはこんな自然と触れ合える場所があるとは知らなかった。生徒たちにも本物に触れる機会をたくさん提供していきたいと感じた。